

池原 昭治

# さやまの伝本

第122話



**眼に効く薬師さま**

昔のお話です。水富の根山の方に、それは働き者のおばあさんと孫娘が住んでおりました。朝は日の出とともに、孫娘と畑に出て、日が西の山に沈むまで畑を耕し、その日を暮らしておりました。

ある日のことです。孫娘の着物がほごびてしまったので、おばあさんが早速縫いつけようと針に糸を通そうとしました。ところが

です。何度やっても針の穴が見えず、糸は通りませんでしたが、眼が弱つたことを知ったおばあさんは、すっかり自信を失い、畑仕事も休みがちになってしまいました。

そんな時、上広瀬本宿の小川のそばに眼病に靈驗あらたかなお薬師さまがあるということを聞きつけた孫娘は、すぐおばあさんをつれて願掛けに出かけました。一人が毎日、熱心におすがりしたおかげで、あんなにかすんでいた眼もよくな

つて、針に糸が通せるようになり、おばあさんと孫娘は以前にもましてよく働くようになりました。

この薬師さまは、堀口薬師で、「ご本尊は木造薬師如来立像です。あるとき火災により、堂はすべて焼失しましたが、ご本尊は無事でした。ご先祖様が新田義興の家臣であったので、新田の薬師さまとも呼ばれ、毎月12日が縁日になっています。



市の花/つつじ



古くから稲荷山公園のつつじとして、親しまれた花であることから、市の花として決まりました。

狭山が発祥の地

## 童句

童句は、自分が童心に帰って詠む俳句です。狭山市童句研究会の選による作品を掲載しています。

ねじ花の	らせん階段	のぼる夢	山下 雍子
七夕の	飾りがなでる	父の肩	大谷木 浩子
風鈴は	すこしの風を	みのがさず	高田 貞子
ひめじょおん	近づいている	草刈機	脇坂 きさこ
泥まみれ	実習田んぼの	田草とり	広沢 一岐
つりがね草	鳴るか鳴らぬか	ふつてみる	

創始者 土家由岐雄

## 何かな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？  
 正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課あてにお送りください。



締切り8月1日(月・当日消印有効)

6月10日号の答え  
 14ページ・ひと・まち写真館の「圏央道側道クリーン作戦」の写真でした。



## 表紙の写真

智光山公園の花菖蒲園で、6月上旬から咲き始めた150種2600株の花菖蒲が6月20日に見ごろのピークを迎えました。週末には、早朝から大きなレンズで本格的に撮影している方やスナップ写真を撮っている方、散歩に訪れた方など、大勢の方が色とりどりの花菖蒲を楽しんでいました。



狭山市公式モバイルサイトのQRコード  
 QRコードに対応した携帯電話で読み取ると公式モバイルサイトへ簡単にアクセスできます